



あれ？ その食形態は退院先でも対応可能？

皆さんは、他の施設で提供している食形態って気にしたことありますか？

「食事摂取可能＝施設に退院可能」？

当院の食事形態と 転院先の施設の食形態が同じとは限りません。種類が少なかったり、同じ名前の食事でも、形態が大きく異なることが有ります。施設に情報提供する際は、刻みの大きさ、トロミの強さ等、詳しく情報を伝える必要があります。伝えることで、栄養管理がスムーズに継続出来ます。退院後すぐの情報不足による窒息や誤嚥性肺炎を防ぐために詳細な情報提供を意識しましょう。

今月、3/22（水）にNST情報交換会を予定しています。

PFMセンターより近隣施設へのアンケートをとり、情報共有のための資料作成の準備をすすめていきます。

医療ソーシャルワーカー 渡邊 盛利綱

お知らせ

第10回 院内NST研修会 南館 1 FMGHホー

《症例検討会》 3月8日（水） 17:30～18:30

どの職種でも参加可能です。栄養に興味のある方ならどなたでもご参加下さい！！

◆ NST勉強会、NST研究会、リンクナース勉強会、院外研修会の出席合計ポイント 10ポイント以上獲得された方には、NSTメンバーとして、NSTバッチを差し上げます♪

◆ 対象者の方には第10回院内NST勉強会後にNSTバッチを配布致しますので、3月8日のNST勉強会に参加表(カード)をお持ちの上、必ずご出席下さい！



学会発表報告

第32回 日本静脈経腸栄養学会 in 岡山 《2017.2.23～24》

「病棟薬剤師を活用した栄養管理の推進 第1報
— 栄養管理に関する知識の把握と改善のため —」

薬剤部 長谷川裕矢

第18回 岐阜南NST研究会報告

2月9日（木） 18：30～20：00 南館1階 MGH
ホール



特別講演 『 地域で繋ぐ高齢者の「食支援」
～多施設・多職種で考える包括的戦略とは
公立能登総合病院 口腔外科
部長 長谷 剛志 先生

今回のNST研究会では、歯科医師の長谷剛志先生を当院にお招きしました。特別講演を開催し、院内・院外から多くのスタッフが参加して盛況な会になりました。

各地で食支援・食形態マップを作成され、歯科医師の立場から「口の中」の状態と栄養管理の講演をしていらっしゃいます。色々な職種が関わるNSTにおいて情報提供等の考え方を見直す、またスタッフのモチベーションUPに繋がった研究会となりました。



～老化と「食べる力」の修復要因～

（講演内容より）

①身体的要因

筋肉が萎縮して消費エネルギーが少なくなるために食欲が減退する。また、多剤服用による影響や消化液（胃液、膵液）の分泌量の減少が腸の蠕動運動を低下させ、食欲減退させる。

②精神要因

老年期の不安、親しい人たちの死別、一人暮らしの孤独感などから「老人性うつ病」になり、食欲不振に繋がるケースが多い。

③口腔要因

歯数の減少、義歯の不適合、口腔の筋機能低下、または唾液分泌量の低下により食塊の形成が困難になると食べられる食品が制限される。味覚の変化により食事の好みが変わることも多い。

④環境要因

一人暮らしの場合や、家族と同居していても日中は一人で過ごす時、どうしても手軽に食べられるお茶漬け、菓子パンで済ませがちである。